

NEUTRAL 通信 vol.12

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」という NEUTRAL のコンセプト実現に向け、NEUTRAL 通信を発行しています。

第12回目はグラフィックデザイナーの鷹巣由佳さん。
NEUTRAL 通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

「YELLOW PAGES LONDON」

2024.4.13sat. - 5.12sun.



写真家 / グラフィックデザイナー

鷹巣 由佳 / YUKA TAKASU

ヨーロッパ各国や台湾などをまわり、旅と日常の境界線や言葉にできない何かを様々な視点で表現を試み、紙を中心に布やアクリルなど様々な素材を用い、AI等の身近な先端技術と、偶然や確率考現学的観点から「予期せぬ予期」を探る作品制作をしている。主な受賞歴に KYOTOGRAPIE×Ruinart「Ruinart Japan Award」初代受賞、第55回富士フィルムフォトコンテストフォトブック部門審査員特別賞など。デザイン事務所 211design-meme- 主宰。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE



SHOKODO
KYOTO

NEUTRAL

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

おだやかな気候で一日中過ごしやすい今日この頃。
公園や街のベンチに座って、本を読んでいる光景も目に入る季節です。
書店店頭では「本屋大賞」の発表など賑わいを見せています。
カバンの中に一冊の本をいれて出かけてみてはいかがでしょうか？

営業時間：10:00~22:00 TEL：075-431-5551

満開になったと思えば、あっという間に葉桜へと変化、なんだか寂しいですね。桜だけでなく仕事や人、生活が大きく変わる四月、いかがお過ごしでしょうか。Slowpageでは、コーヒー以外にも豊富なメニューがございます。いつものコーヒーから今日はスムージーを、まずはカフェラテからコーヒーに挑戦してみよう。いつも通りの日常に少しだけ変化を加えてみると、新たな自分や可能性と出会えるかもしれませんね。

営業時間：8:30~23:00 TEL：075-431-5551

「隠/なぶり」 池田治彦作品展
2024.5.3sat. - 5.13mon.
会場：NEUTRAL
時間：10:00~19:00 ※最終日 10:00~16:00
主催 京都昌幸堂 協力 NEUTRAL

営業時間：10:00~18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

三富中立売書店
2024.4.13sat. - 4.28 sun.
「本が作れる本屋」を目指して作られた堀川新文化ビルディングと、「本や冊子を制作する人たちが気軽に参加できる発表・実績・販売の場」を提供してきた三条富小路書店が、本づくりを応援するイベントを開催したいという思いでコラボレーションした「三富中立売書店」。本をつくるすべての人の「見せたい、売りたい」をかなえる。ブックイベントを開催中！

営業時間：10:00~19:00 TEL：075-431-5537

灯をみる we stare at the light / 林勇気
2023.4.13sat. - 5.12sun.
蝋燭の灯による幻灯機によってイメージを映写する「場と時間」を作品として提示する林勇気の個展。本展ではライトボックスとプロジェクターによる展示とともに、毎時00分ごとに幻灯機によるスライドの映写をおこないます。
(各回10分程度・スライドは毎回異なります)

営業時間：13:00~19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休

堀川新文化
ビルディング
HORIKAWA
NEW CULTURE BLDG.
KYOTO

〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287
[アクセス]
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分
○京都市バス9番・12番・50番・67番系統
「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
○駐車場・駐輪場あり
※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで



—— どんな子ども時代でしたか？

木の箱に100冊本が入ったセットを祖母からプレゼントしてもらったことから、話せないくらい小さな頃から絵本が好きで、物心ついた時には絵を描いていたそうです。何にでも好奇心が強い子どもで、父親に言われて百科事典をよく引いていました。学校では図書委員をしていて、図書室には赤い表紙の辞典が並んでいて、その頃のイメージも今の作品や本づくりにつながっています。

—— 写真家になったきっかけは何ですか？

グラフィックデザイナーとして商業デザインをしているので、写真とは近い場所にはいたのですが、2013年にデザインの聖地といわれる北欧のフィンランド、デンマーク、スウェーデンに行く機会があり、その土地や感性との出会いは「発見」の連続で、現地の写真を撮影し、帰国後『Linos』という写真集にまとめました。初めてつくった100ページほどもある写真集は、第55回富士フィルムフォトコンテストで審査員特別賞を受賞。写真という表現が自分には合っているのではないかと思いい、今に至ります。

その後、写真集と展覧会をセットするという流れができました。ちょうど10年前の話です。

—— 現在はどのような活動をされていますか？

写真集と展覧会開催のほかに最近は何をつくることも増えました。現在 Artbook Project を運営していて、ひとつひとつ異なるストーリーを持つコンセプトチュアルアートブックなどを企画制作、展示販売もしています。

—— どんなカメラを愛用されていますか？

いつでも撮影できるように、ずっと持っていていられるようなサイズのカメラとデジタルとフィルムを何個か持っています。

「写ルンです」も持ち運びしやすく好きです。

仕事で風景などを撮る時は三脚をたてて望遠レンズ付きの大型カメラを使うこともありますが、人物を撮る時はできるだけ自然な雰囲気撮りたいので、存在感があまりない小さめのカメラを使用するようにしています。あまり大きなカメラを持っていると、小さな子どもたちは気になっちゃうので。

—— なんとなく写真の魅力を感じますか？

そこにあるものしか撮れないのに、切り取りかたで違うように見えたりすることや、作品の大きさを変えられたり、複製できたり、色々なものにプリントできたりすることが写真の面白さだと思います。展示を行う際には、それぞれの写真をより自由に表現したいと考えます。例えば、初めての展示では、優しい風を感じるような作品にしたり花を大きな布にプリントしました。見る人がアリになったような感覚で花を見上げる展示にしたいと思ったからです。アクリルの作品では、窓ガラスのように見えたり、水や光をとじこめたように見えるものも作っています。これからは紙や布以外にも、作品にとってより相応しい素材があれば様々な表現方法を試してみたいです。

—— 見に来て下さるお客様へのひとこと

いつも見ている景色がファインダーを通すと自分の視点になり、色を限定して見るとまた違うことが気になってきます。何気ない景色も自分なりの発見があふれていると思っいつも歩いています。展示を通して、見ていただいたかたの、何かしらの発見があると嬉しいです。



自分の好きな本・雑誌

『BRUTUS(ブルータス)』マガジンハウス

『TRANSIT』講談社